

【次の文章を読んで、後の問いに答えよ。設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。】

楚人謂虎為老虫、姑蘇人謂鼠為老虫。余官長洲、以事至
 婁東、宿郵館、滅燭就寢、忽碗碟着然有聲。余問故闈童
 答曰、「老虫。」余楚人也、不勝驚錯。曰、「城中安得有此獸。」童
 曰、「非他獸、鼠也。」余曰、「鼠何名老虫。」童謂「吳俗相傳爾耳。」
 嗟、鼠冒老虫之名、至使余驚錯欲走。良足發笑。
 然今天下冒虛名駭俗耳者、不少矣。聆其名、赫然喧然、
 無異（あ）老虫也。徐而叩所挾、止鼠技耳。

注(1)姑蘇 吳地方を指す (2)長洲 吳地方に属する県の名前 (3)婁東 吳地方に属する町の名前 (4)郵館 宿屋 (5)碗碟 食器
 (6)碟着 がたがたと音を立てるさま (7)闈童 門番の少年 (8)赫然喧然 意識盛んであること (9)叩所挾 その力量を試すこと
 (10)鼠技 鼠程度の力量

問一 傍線部①②⑤の漢字を本文の内容に合うように、現代仮名遣いで送り仮名を含めて書け。(各三点)

問二 傍線部③について

一、本文の内容に合うように返り点をふれ。(五点)
 二、「此」の内容を明らかにして、現代語訳せよ。(六点)

問三 傍線部④について、本文の内容に合うように現代語訳せよ。(七点)

問四 傍線部⑥は、「私を驚かせ、逃げたいと思わせるようになった」と訳すことができる。内容に合うように返り点をふれ。(七点)

問五 (あ)に入る漢字を次の中から一つ選べ。(五点)

一、也 二、兮 三、而 四、焉 五、于

問六 本文は、筆者が「虎」と「鼠」をに例えに用いて、当時の世相についての主張を展開している。筆者の主張を、「虎」「鼠」の文字を用いた上で簡潔に説明せよ。(十一點)

計五十點